

# 平成 26 年度福井県計画に関する 事後評価

令和 5 年 8 月  
福井県

### 3. 事業の実施状況

平成26年度福井県計画に規定した事業について、令和4年度計画終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 病床の機能分化・連携に関する事業	
事業名	【事業 No. 1 (医療分)】 地域包括ケア病院等整備事業	【総事業費】 2,955,161 千円
事業の対象となる区域	福井・坂井医療圏、奥越医療圏、嶺南医療圏	
事業の実施主体	春江病院、福井勝山総合病院、上中病院等	
事業の期間	平成26年12月1日～令和5年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>中核的な病院が福井・坂井医療圏に集中しており、他の医療圏から福井・坂井医療圏に患者が流出している(他医療圏の流出率:急性期4割、回復期3割)。医療・介護の連携体制を構築するためには、地域に回復期病床を整備するとともに、入院と外来医療の役割分担を進める必要がある。</p> <p>アウトカム指標:2025年までの必要整備量(病床機能報告による現状と地域医療構想における病床の必要量との比較)に対する回復期病床整備量 1,131床(2,646床-1,515床)</p>	
事業の内容(当初計画)	急性期医療を経過した回復期の患者について、リハビリや在宅医療等を身近な医療機関で受けられるよう、急性期病院からの患者受入れのための病棟やリハビリに必要な施設等を整備する。また、救急や急変した在宅療養者の受入れに必要な施設・設備整備を支援する。	
アウトプット指標(当初の目標値)	回復期病床を充実する医療機関数:R4 1機関	
アウトプット指標(達成値)	回復期病床を充実する医療機関数:R4 1機関	
事業の有効性・効率性	<p>観察できた(病床機能報告 2022.7.1時点病床数) 一般・療養病床が前年度に比べ▲100床(8,882→8,782)削減された。 回復期病床が前年度に比べ178床(1,718→1,896)増加した。</p>	
	<p>(1) 事業の有効性 中核的な病院等から回復期の患者を受け入れるための病棟整備や在宅療養患者の急変時の受入れ体制の整備が一定程度進んだ。</p> <p>(2) 事業の効率性 病院・診療所の再編等に併せ、効率よく回復期病棟等の整備</p>	

	を進めることができた。
その他	<p>(年度別基金活用実績)</p> <p>H26 : 1,306 千円</p> <p>H27 : 418,258 千円</p> <p>H28 : 48,237 千円</p> <p>R4 : 9,704 千円</p>